

奈良時代からある日本の星祭り、  
七夕を科学館で楽しみませんか。

# 科学館で七夕



## 七夕かざり

2008年7月1日(火)～6日(日)

高さ7mのジャンボ笹が、科学館アトリウムに登場！  
星へのメッセージを短冊に書いて笹につるして飾ろう。  
毎日先着100名様・無料



## プラネタリウム「天の川を見よう」

2008年6月1日(日)～8月31日(日)

満天の星空に、薄ぼんやりと見える天の川は、実は膨大な数の星の集まりです。その星の集まりは、銀河系と呼ばれ、星だけではなく、様々な星雲もその中にあります。天の川を眺めながら銀河系の姿に思いをはせてみましょう。

前半では、おりひめ星の見つけ方など、夏の星を中心に、学芸員のライブ解説でその日の星空や宇宙・天文に関するニュース・トピックスを紹介。

投影時間：45分間 平日：12時、14時、16時 土日祝日および夏休み期間：10時、12時、14時、16時  
各回先着300名様 大人600円・高大生450円・中学生以下300円  
休館日：月曜、祝翌日および7月14日(月)～17日(木)

## 七夕の起源

七夕は、7月7日に行なう星祭りです。七夕の日は、一年に一度だけ「おりひめ(織女)」と「ひこぼし(牽牛)」が天の川の上でデートをする日といわれ、この日にちなみ、願い事を書いた短冊を笹の葉につるし、おりひめ星に技芸の上達を願います。

七夕の起源には、大きくわけて二つの説があります。一つは、織女と牽牛の物語にちなんで星をながめ、針などをお供えして技芸の上達を願うという、中国の星祭り「乞巧奠(きこうでん)」が日本に伝わったという説です。

もう一つは、毎年7月7日に「棚機女(たなばたつめ)」という巫女が水辺で神の降臨を待つという、日本の民間信仰と結びついた行事があり、この行事と中国の乞巧奠が合体したという説です。

(こよみハンドブック：大阪市立科学館発行より)

